

池田家文庫絵図展

陸の道

平成19年11月16日（金）～12月2日（日）
岡山市デジタルミュージアム（岡山市駅元町15-1）



岡山大学附属図書館



岡山市デジタルミュージアム

陸の道

第19回全国生涯学習フェスティバル
まなびピア岡山2007協賛事業

池田家文庫絵図展

陸の道

発行日 2007年11月16日
編集・発行 岡山大学附属図書館
岡山市津島中3-1-1
電話086-251-7322
株式会社 三浦印刷所
岡山市奥田1丁目4-7

© Okayama University Library 2007

(西大寺)吉井川 (岡山)旭川

赤穂 明石 兵庫 西宮 尼崎 大阪 守口 山崎 伏見 京

25 関所通手形認案 江戸時代後期
（1）二両街道切手指出候ケ所書付
（2）「碓氷関所通切手」
（3）「箱根関所通切手」

26 御参府御道中御供御行帳 文化五年（一八〇八）三月
岡山から江戸への参府道中の行程と道中の役割分担を記した帳面。道中も袖に入れて持ち運べるような小帳に仕立てられている。このときの藩主は池田斉政。三月十五日に岡山を出発し、美濃路・東海道を経て四月四日に江戸に着いている。

27 御参府御道中御供御行列 文化五年（一八〇八）三月
参府道中の行列次第を記した帳面。道中用の小帳仕立て。岡山から兵庫まで海路で行くものは「播磨磨御船」の貼紙がある。朱書の付紙は、役職を示している。

28 御帰国御道中御休御泊諸事留 文化六年（一八〇九）
江戸から岡山への帰国道中の行程と道中の役割分担を記した帳面。道中用の小帳仕立て。藩主は同じく池田斉政。四月二十一日に江戸を出発し、中山道を経て五月九日に岡山に着いている。

29 御帰国御道中御行列 慶應二年（一八六六）十二月
帰国道中の行列次第を記した帳面。道中用の小帳仕立て。参府道中との大きな違いはない。

30 御帰国御道中御行列 慶應二年（一八六六）十二月
池田茂政が京都から岡山に帰国したときの行列次第を記した帳面。小帳。第二次長州戦争の停戦後、十月から在京していた茂政は、徳川慶喜の將軍宣下を見届けたうえで、十二月十日に帰国の途に着いた。平時の参勤交替とは異なって、天皇からの賜物である「天盃」を先頭に掲げ、大砲隊や銃隊を配するなど、幕末らしい行列編成になっている。

陸の道

池田家文庫絵図展

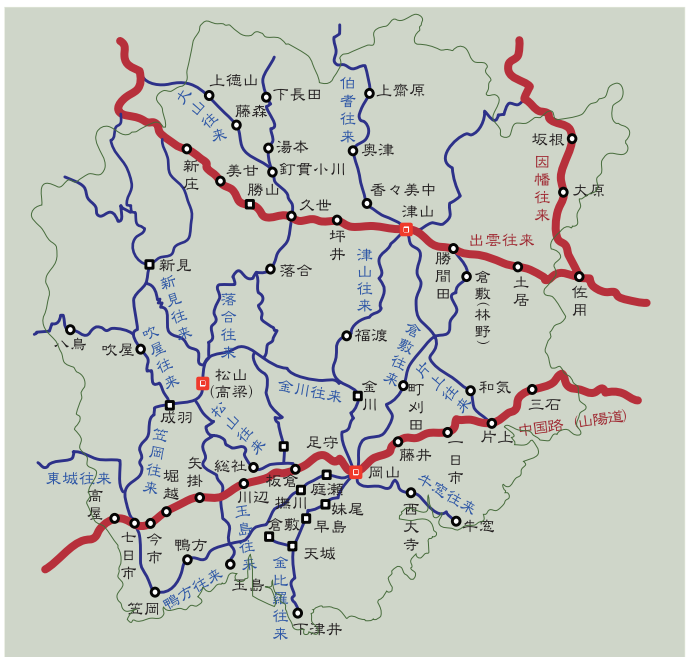
江戸時代の交通

人の移動が繰り返されると、道ができる。だから、道の歴史は人類とともに古い。

国家が生まれると、支配のためのルートとして道が利用される。無数の道のうち、幹線道が「官道」として政府によって維持管理されるようになる。古代の律令国家では、都と地方とを結ぶ「七道」が整備され、三十里（約十六里）ごとに駅屋が設けられた。

江戸時代になると、京都と江戸とを結ぶ東海道・中山道、および江戸を始点とする甲州道中・日光道中・奥州道中が「五街道」として徳川幕府によって直接管理された。五街道は、道中奉行が専管した。それ以外の地方の幹線道は「脇街道」とされ、幕府勘定奉行の支配を受けたが、日常的な維持は各地の領主に任された。脇街道のうち最も重要なものは、大坂と小倉を結ぶ中国路（西国路・山陽道）、小倉と長崎を結ぶ長崎街道であった。

産業の発達した江戸時代には、物流も盛んになった。大量の物資の輸送には、船が便利だった。海や河川の交通が発達し、陸の道との結節点には物流の拠点となる町場が発展した。幹線道には「一里塚」が設けられ、中小河川には橋が、大河川には渡し舟などが整備された。



■ 図・岡山地域の近世交通路 ■

五街道並の二十五人二十五匹と定められ、高屋は十五人二十四、藤井と板倉は八匹の定めであった。備前国内の三石と片上には特に定めはなかった。出雲往来では、津山が二十五人二十五匹と五街道並であった。交通量の増加した江戸時代中期以降には、地方道の通る在町でも伝馬や人足を提供するようになった。

駅の困窮をいよいよ増すようになった。岡山・藤井・片上・三石の四か駅は、連名で賃金の割増を何度もお願いし、藩はこれを幕府に取り次いだ。幕府は、五街道を中心に運賃の割増を認めていただけに、地方からの要請も認めざるを得なかった。岡山藩四か駅では、文化十年（一八一三）にそれまでの賃金の一・五割増、文政十二年（一八二九）にさらに一・五割増、計四割増が認められた。その後も四か駅は割増の欺瞞を繰り返した。幕府は容易にそれを認めなかった。また、地域には地方の幹線道以外にも、村と村を結ぶような細かな道路網が張り巡らされていた。これらの道路は藩の郡奉行が監督し、その情報は郡絵図などに記された。十七世紀中頃に岡山藩領で作られた郡絵図には、村の道は「馬道」と「歩行道」に区別され、道に掛かる橋も「石橋」「土橋」「板橋」の区別が記されている。こうした村の道や橋の補修は基本的に村の自費請であったが、数か村にまたがるような場合は藩の御普請で行われることもあった。

（解説 岡山大学・教授 倉地克直）

伝馬や人足の運賃は、幕府の御定賃に定めてられた。岡山藩内の各宿駅での運賃は、正徳二年（一七一二）に幕府の高札に基づいて決められて以降、長い間変更されることはなかった。そのため、負担量の増大が宿

江戸時代の大名は、一年おきに領地と江戸で交替に居住する参勤交替が幕府によって命じられていた。そのため、毎年藩主自身が領

地と江戸の間を通行した。岡山藩の場合、参勤行列の人数は正確には把握しづらいが、付き添いの家臣や足軽・小者などを合せて数百人ものぼったと思われる。行列は一般には、藩主の乗る輿を中心に槍や弓・長刀を配し、威儀を正したものであったが、幕末の慶応年間（一八六五～六八）になると、大砲や鉄砲を備えた軍事色の強いものになった。

（解説 岡山大学・教授 倉地克直）

- 徳山
 - 竹田
 - 中津
 - 長府
 - 下関
 - 小倉
 - 秋月
 - 熊本
 - 福岡
 - 築後川
 - 柳川
 - 島原
 - 天草
 - 長崎
 - 平戸
 - 五島
 - 対馬
- 東西道中之絵図 江戸時代後期（T8-126）

〔展示品解説〕

1 御納戸大帳 江戸時代前期
岡山藩政確立期の幕府法令および岡山藩独自の重要な法令を収録した。...

2 撮要録巻十四 江戸時代後期
岡山藩の農村支配に関する基本史料を編集したもの。留方が作成した。...

3 駄賃高札控 江戸時代中期
中国路の藤井宿に揚げられた駄賃高札の文面を写した。天和三年(一六八三)六月、亥年(天和三)十二月、元禄三年(一六九〇)十月の三枚分。...

6 備前国絵図 正徳五年(一七一五)八月
池田綱政から継代への藩主交代にあたって幕府から派遣された監使(目付、曾我平次郎・中野佐兵衛)に提出された国絵図の控。...

7 三石国境ヨリ森下迄沿道之図 江戸時代後期
播磨国境の三石から岡山城下口の森下まで、中国路の様子を極彩色で描いたもの。...

11 備前国道筋并難道船路帳 正保四年(一六四七)
正保の国絵図とともに作成が命じられ、幕府に提出されたもの控。...

12 備前国往還付替願 文久三年(一八六三)
幕末になって中国路の往來が増加し近隣の軍事的緊張も高まったことから、岡山藩では無用の混乱を避けるために、...

13 新道御用ニ付古往還御廢シ可相成との御事ニ付書付 元治元年(一八六四)
新道への付け替えによって、従来の中国路のうち藤井宿から城下森下口まで、および万町口から一宮東外れまでの道路が、幅員縮小もしくは廃止されることになった。...

16 備前国脇五ヶ駅賃割増ニ付歎願書 嘉永元年(一八四八)八月
和気郡和気村、赤坂郡周面村・福田村・町苅田村、津高郡金川村の脇五ヶ駅が、困窮を理由に、西国往還筋の領内四ヶ駅と同様に、割増賃金を認められるよう藩に訴えた願書。...

17 御四ヶ駅并脇往反共人馬賃割増御願書一件 嘉永元年(一八四八)
中国路の岡山・藤井・片上・三石の四ヶ駅および脇五ヶ駅が駄賃・人足賃の割増を歎願した一件書類を編集した帳面。...

18 御四ヶ駅御窮割増一件 文政十一年(一八二八)
中国路の藩内四ヶ駅が、賃割増を歎願した一件書類を編集した帳面。...

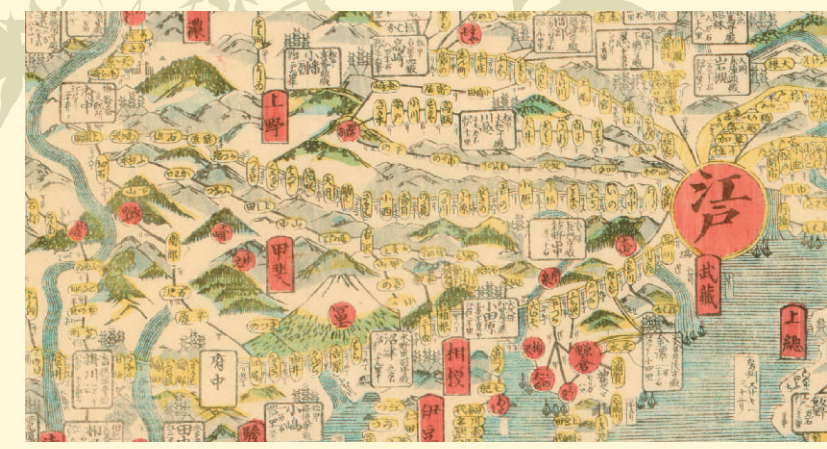
19 備前国脇五ヶ駅往來絵図 嘉永元年(一八四八)
賃割増の歎願書(16)に添えられた絵図。往還筋が村名とともに朱線で描かれ、余白には脇五ヶ駅から各地への里数が記されている。...

20 正徳二辰年御定御高札面人馬元運賃書上帳 嘉永元年(一八四八)
賃割増の歎願書(16)に添えられた帳面。正徳二年(一七二二)の高札に定められた脇五ヶ駅から各地への御定賃金が、本馬・軽尻馬・人足に分けて書き上げられている。...

21 御定之外以里數割合継來相成居申人馬元賃書上帳 嘉永元年(一八四八)
賃割増の歎願書(16)に添えられた帳面。脇五ヶ駅から各地への賃金のうち、高札に定められた以外に、里数割合をもって徴収してきた分を書き上げたもの。...

4 東西道中之絵図 江戸時代後期

絹布貼付表紙の豪華な装幀の折本。桐箱入り。江戸から肥前五島までが描かれる。江戸から大坂までは陸路、大坂から長崎までは海路。...



全国の主な街道と宿駅を記した絵図。木版多色刷、折本、帯封入り。浪華の友鳴松旭の図、江戸書肆三河屋鉄五郎の版。...

8 上東郡図 万治四年(一六六二)頃
万治四年(一六六二)頃岡山藩の郡奉行が郡方支配の便宜のために作成した郡図の一枚。...



余白部分には「御用も可調者が書き上げられ、郡の大きさ、川についての情報、村数なども記されている。」

9 備前国絵図 寛永十五年(一六三八)頃
「寛永古図」として伝えられるもので、余白部分に領主名と知行高が書かれており、その領主名から寛永十五年(一六三八)頃に作成されたと考えられている。...



「節所」などの記載はあるが、国境の「小書」をはじめ、交通情報は後の正保図や元禄図に比べて簡略である。...

14 上道郡藤井駅ヨリ津高郡西辛川村迄目論見新道見取凡絵図 文久三年(一八六三)
新道付け替えの目論見絵図。願書に添えられたもの。...

15 上道郡藤井駅ヨリ御野郡釣之渡福林寺繩手通り古道見取凡絵図 文久三年(一八六三)
藤井宿から釣の渡しで大川を渡り、福林寺(妙善寺)門前を通って富原村にいたる古道(ほぼ中世の山陽道にあたる)を示した略図。...

22 駄賃人足賃相定覚 正徳二年(一七二二)
岡山の間屋場に揚げられた高札の実物大の写し。岡山から藤井・牛窓・板倉・庭瀬・金川・町刈田・天城までの、本駄賃・荷無駄賃・人足賃が書かれている。...

23 備陽記巻二十四 江戸時代中期
郡奉行などを長年勤めた岡山藩士の石丸定良が編纂した地誌。...

24 道中被仰出口上覚書 江戸時代中期
「御近習之者江戸へ召連申人数覚」千石から百五十石石まで、近習の者が江戸へ召し連れるべき家来的人数を指示した書付。...

